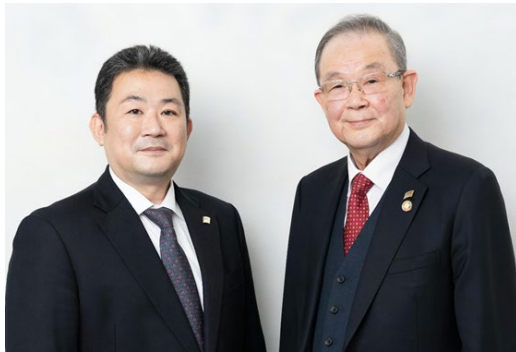


タイ工場の存在がタイ人採用にプラス。ISO等の重要プロジェクトを任せて。

株式会社阪口製作所は、主にTier1にシートベルトやエアバッグの金属プレス加工品を納める自動車用安全部品メーカーです。

タイ人留学生を積極的に雇用し、製造現場ではなく、設計やISO対応等の管理業務を任せています。

阪口雄次会長と阪口彰社長にお話を伺いました。（2020年11月）



阪口雄次会長（右）と阪口彰社長

－ タイ人を採用されたきっかけは？

当社は、メイン顧客企業の要請で1997年にタイに進出し、年々、生産量を2割ずつ向上させてきました。おそらくタイ工場の存在を知ってでしょう、6、7年前に、京都の**語学学校からタイ人の留学生を紹介され**、インターンシップ後、正社員として採用したのです。

そのとき、「こういう雇用する方法があるんだ」と気付きました。その社員は泰日工業大学の卒業生で、**日本語もできて、自動車工学の知識もある。すごく良かったので、「周りに知り合いはいないか？」と聞いて、タイ人の採用を広げた**のです。

現在、**タイ人社員を17名雇用しており、男女ほぼ同数**です。**今後も、日本人とタイ人を半々で採用**していきたいと考えています。

－ 募集はどのように？

タイ人社員によるSNS発信で募集しています。日本にいる人材とタイにいる人材の両方を対象にFacebookで「日本で働きたい人」と募集すると、結構応募があるんです。

その際、**タイに現地法人があるのは強み**ですね。**口コミ**はものすごく大きな武器になります。



タイ法人 SAKAGUCHI (TAHILAND) CO., LTD

－ どのような業務を任せているのでしょうか？

それぞれの特性を活かして、ISOや4S、IATF取得に向けたプロジェクト等、重要な業務を任せています。当社としても、タイ人社員の高度な知識や経験、グローバルな考え方を吸収することができますね。

日本人と同じ無期雇用ですが、数年で帰国するリスクも踏まえ、対応できる体制も整えています。

ー日本人社員との関係はいかがですか？



談笑するタイ人社員と日本人社員

中小企業の場合、まだ外国人労働者を下に見る風潮が根強く残っているところもあると思います。しかし実際には、親が弁護士や社長という家庭環境で、四年制大学を卒業しているケースも多い。日本人と同じかそれ以上の待遇が必要で、最低賃金で雇おうなどと考えるはいけません。

当社でも最初はそのような雰囲気もありましたが、すぐに同じ仲間という意識に変わりました。現在は、**日本人もタイ人も処遇は全く同じ**です。

タイ人社員には、日本語検定の資格で給与に差を付けて、日本語を勉強するインセンティブにしています。また、**日本人社員にもタイ語を勉強するように言っています。**

ータイ人の特徴はありますか？

最近ではベトナム人の技能実習生や留学生が増えています。ベトナム人は勤勉なのに対して、**タイ人は大らか**ですね。「マイペンライ（ノー・プロブレム）」が口癖です。

時間の感覚も違います。タイに進出した頃、「日本人はおかしいですね。時間を守る」と言われて面食らいました。タイでは「今日、行きます」としか言わないんです。「何時に行く」とは言わないんです。それが彼らの基準であることを我々も**承知する必要がありました。**

今のバンコクは都会っ子が多く、時間も守るようになっていますし、ヨーロッパ系も入って世界的な視野も持っている。むしろ、日本人の方が遅れている面もあります。時々、我々が経験したことのないようなハイテクなことを言ったりして、ハッとさせられることもありますよ。

また、**SNSをよく使います**ね。日本はもちろん、タイにまですぐ情報が伝わってしまうので、**情報管理はきちんと**する必要があります。

担当者からの一言

日本人社員にもタイ語の勉強を促す等、お互いに理解を深めようという姿勢が素晴らしいですね。



3次元測定をするタイ人社員



シートベルトやエアバッグの金属プレス加工品

【株式会社阪口製作所】

住所：京都市伏見区淀下津町221

代表者：代表取締役会長 阪口 雄次

代表取締役社長 阪口 彰

創業：1946年、設立：1957年

業種：自動車用安全部品（シートベルト、エアバッグ金属加工品）の製造

資本金：1,500万円

従業員数：138名

（うち高度外国人材17名）

タイ法人：SAKAGUCHI(THAILAND) CO., LTD

HP：<http://www.sakaguchi-jp.com/>